

江別市一般廃棄物処理基本計画

中間見直し(案)

平成28年 月

江 別 市

諮問事項

1. 見直しの趣旨-----	1
2. 計画の目標値-----	2
3. 基本方針に基づく施策-----	4

1. 見直しの趣旨

(1) 社会情勢と課題

社会情勢は、少子高齢化に伴う人口の減少や大都市圏への人口集中などの人口構成の変化、ライフスタイルの多様化に伴う商品やサービスの充実、経済対策による景気回復及び社会保障の安定化に向けた消費増税による経済的变化のほか、東日本大震災以降のエネルギーを取り巻く変化の中、ごみ処理においても自然と調和する循環型社会の形成と低炭素社会の構築が求められています。

こうした中、本市も循環型社会の形成を推進するため現計画を策定し、ごみの減量化・資源化に取り組みましたが、ごみ排出量は家庭系・事業系ともに平成24年度まで横ばい傾向が続き、平成25年度は消費増税前の駆け込み需要に伴い大きく増加するなど、経済の影響を受けたこともあり、現状では中間目標値に達成しない状況です。

このため平成32年度の目標を達成するため、現計画を見直すものです。

(2) 中間見直しの基本的な方向性

【基本的な方向性】

目標年度(平成32年度)の各目標値の達成に向け、上位計画である第6次江別市総合計画や国及び北海道の廃棄物処理に関する計画と整合を図り、基本方針に基づく新たな施策を策定して重点的に取り組めます。

【重点的に取り組む事項】

- ごみ排出抑制を促すための具体的な施策を展開するとともに、分別の徹底を推進します。
- 民間事業者と連携した資源化を推進します。
- ごみ処理における市民サービスの充実を図ります。
- 経済的・効率的なごみ処理の継続に向け、適正なごみ処理施設の維持管理に努めます。

2. 計画の目標値

(1) 現計画の目標値

排出抑制の目標値

平成32年度における1人1日当たりのごみ排出量を基準年度より約3%削減し、910g以下とします。

区 分		平成21年度 (基準年度)	平成27年度 (中間目標年度)	平成32年度 (目標年度)		
				目標値	基準年度比較	
					増減	増減率
総 量	排出量	41,837t	40,000t	38,360t	△ 3,477t	△ 8.3%
	家庭系ごみ	31,770t	30,430t	29,300t	△ 2,470t	△ 7.8%
	家庭系廃棄ごみ	22,508t	20,880t	19,590t	△ 2,918t	△ 13.0%
	集団資源回収等	9,262t	9,550t	9,710t	448t	4.8%
	事業系ごみ	10,067t	9,570t	9,060t	△ 1,007t	△ 10.0%
1 人 1 日 当 た り	排出量	939g	920g	910g	△ 29g	△ 3.1%
	家庭系ごみ	713g	700g	695g	△ 18g	△ 2.5%
	家庭系廃棄ごみ	505g	480g	465g	△ 40g	△ 7.9%
	集団資源回収等	208g	220g	230g	22g	10.6%

資源化の目標値

平成32年度におけるリサイクル率を基準年度より3.6ポイント向上させ、約33%とします。

区 分		平成21年度 (基準年度)	平成27年度 (中間目標年度)	平成32年度 (目標年度)		
				目標値	基準年度比較	
					増減	増減率
総資源化量		12,281t	12,450t	12,510t	229t	1.9%
リサイクル率(資源化率)		29.4%	約31%	約33%	3.6ポイント	-

最終処分の目標値

最終処分場の供用期間を当初計画の15年から5年以上延長させます。

(2) 中間見直し計画の目標値

排出抑制の目標値

平成32年度における1人1日当たりごみ排出量の目標値は現計画と同じく910gとし、平成26年度より4.6%削減します。

区 分		平成26年度 (基準年度)	平成32年度 (目標年度)		
			目標値	基準年度比較	
				増減	増減率
総 量	排出量	41,575t	38,360t	△ 3,215t	△ 8.4%
	家庭系ごみ	31,159t	29,300t	△ 1,859t	△ 6.3%
	家庭系廃棄ごみ	22,410t	19,590t	△ 2,820t	△ 14.4%
	集団資源回収等	8,749t	9,710t	961t	9.9%
	事業系ごみ	10,416t	9,060t	△ 1,356t	△ 15.0%
1 人 1 日 当 た り	排出量	952g	910g	△ 42g	△ 4.6%
	家庭系ごみ	714g	695g	△ 19g	△ 2.7%
	家庭系廃棄ごみ	513g	465g	△ 48g	△ 10.3%
	集団資源回収等	200g	230g	30g	13.0%

資源化の目標値

平成32年度におけるリサイクル率の目標値は現計画と同じく約33%とし、平成26年度より5.1ポイント向上させます。

区 分		平成26年度 (基準年度)	平成32年度 (目標年度)		
			目標値	基準年度比較	
				増減	増減率
総資源化量		11,616t	12,510t	894t	7.1%
リサイクル率(資源化率)		27.9%	約33%	5.1ポイント	-

最終処分の目標値

平成32年度における最終処分場の残余容量は13,303立方メートル以上とし、埋立終了を平成35年度以降に延長させます。

区 分	平成26年度 (基準年度)	平成32年度 (目標年度)
埋立容量(単年度)	4,087m ³	3,571m ³
埋立容量(累計)	48,096m ³	64,697m ³
残余容量(積算値)	29,904m ³	13,303m ³
残余容量(測量値)	34,320m ³	

- ※ 目標年度の残余容量は供用期間を当初計画の15年から5年延長、埋立終了予定を平成35年度とした場合の値です。
- ※ 最終処分場の残余容量(積算値)は、埋立てられる廃棄物を種類に応じて重量から体積に換算した埋立容量(単年度)の累計により求められた値のため、毎年度実際に測量して求められる残余容量(測量値)より少ない値となっています。

2. 基本方針に基づく施策

(1) 現計画の施策

基本方針	施策	実施状況
基本方針 1 3Rの推進	1-1) 発生・排出抑制の啓発・支援	実施
	1-2) 広報機能の充実	実施
	1-3) 環境教育(学習)の推進	実施
	1-4) 市民団体等との協働	実施
	1-5) 生ごみ減量化の推進	実施
	1-6) リサイクルバンクの運営	実施
	1-7) リユース活動の情報提供	実施
	1-8) 事業系食品残渣再利用の調査研究	実施
	1-9) 集団資源回収の推進	実施
	1-10) 資源物収集の品目拡大の検討	検討
	1-11) 事業者の自主回収ルートを活用	実施
	1-12) 植物性廃食用油の拠点回収の情報提供	実施
	1-13) 布類の拠点回収の拡充	実施
	1-14) 使用済小型家電の回収	実施
	1-15) グリーン購入の推進	実施
基本方針 2 適正なごみ処理の確保	2-1) 安全・安心なごみ処理体制の確保	実施
	2-2) 民間処分業者の活用	実施
	2-3) 在宅医療廃棄物の適正処理	実施
	2-4) 地域生活環境の保全	実施
	2-5) 事業系ごみの適正処理	実施
基本方針 3 市民の視点に立った ごみ処理システムの構築	3-1) 大型ごみ収集区分の新設	実施
	3-2) 指定ごみ袋の統合と新設	実施
	3-3) ごみ処理手数料の減免拡大	実施
	3-4) ごみ出し困難者に対する収集方法の検討	検討
	3-5) 燃やせるごみの早期収集	検討
基本方針 4 経済的・効率的な ごみ処理の推進	4-1) 施設の維持管理の推進	実施
	4-2) 収集運搬業務の一括委託	実施
	4-3) 資源物・危険ごみの同日収集	実施
	4-4) 燃やせないごみの収集回数の見直し	実施
	4-5) ごみ処理業務の委託拡大	実施
	4-6) 環境クリーンセンター処理手数料の検討	検討
	4-7) リサイクルバンク利用者負担の検討	検討
	4-8) 広報誌等への有料広告掲載の募集	実施
	4-9) 新しいコスト計算手法の導入研究	検討

(2)中間見直し計画の施策

基本方針	施策	展開状況	重点的取組内容
基本方針 1 3Rの推進	1-1) 発生・排出抑制の啓発・支援	継続	
	1-2) 広報機能の充実	継続	・スマートフォン等を活用した広報の検討
	1-3) 環境教育(学習)の推進	継続	
	1-4) 市民団体等との協働	拡大	・大学と連携したごみ出しルールの啓発手法の研究
	1-5) 生ごみ減量化の推進	拡大	・食材使い切り、保存方法、ダイエットレシピのPR
	1-6) リサイクルバンクの運営	継続	
	リユース活動の情報提供	1-2)へ統合	
	事業系食品残渣再利用の調査研究	1-10)へ変更	
	1-7) 集団資源回収の推進	継続	
	1-8) 資源物収集の品目拡大の検討	継続	
	事業者の自主回収ルートを活用	1-2)へ統合	
	植物性廃食用油の拠点回収の情報提供	1-2)へ統合	
	布類の拠点回収の拡充	1-11)へ統合	
	使用済小型家電の回収	1-11)へ統合	
	1-9) グリーン購入の推進	継続	
	1-10) 事業系食品残渣再利用の推進	新規	・民間事業者による食品残渣飼料化の推進
	1-11) 古着・古布及び小型家電の拠点回収	新規	
基本方針 2 適正なごみ処理の確保	2-1) 安全・安心なごみ処理体制の確保	継続	
	2-2) 民間処分業者の活用	継続	
	2-3) 在宅医療廃棄物の適正処理	継続	
	2-4) 地域生活環境の保全	継続	・大学ごみ出しルール説明会を実施
	2-5) 事業系ごみの適正処理	継続	
基本方針 3 市民の視点に立った ごみ処理システムの構築	大型ごみ収集区分の新設	4-6)へ統合	
	指定ごみ袋の統合と新設	4-6)へ統合	
	3-1) ごみ処理手数料の減免拡大	継続	・乳幼児の年齢要件の拡大検討
	3-2) ごみ出し困難者に対する収集方法の検討	継続	
	3-3) 燃やせるごみの早期収集	継続	
基本方針 4 経済的・効率的な ごみ処理の推進	4-1) 施設の維持管理の推進	継続	・長期包括委託後の施設の方向性を検討
	収集運搬業務の一括委託	4-6)へ統合	
	資源物・危険ごみの同日収集	4-6)へ統合	
	燃やせないごみの収集回数の見直し	4-6)へ統合	
	4-2) ごみ処理業務の委託拡大	継続	
	4-3) 環境クリーンセンター処理手数料の検討	継続	
	リサイクルバンク利用者負担の検討	1-6)へ統合	
	4-4) 広報誌等への有料広告掲載の募集	継続	
	4-5) 新しいコスト計算手法の導入研究	継続	
	4-6) 収集手法・体制等の検証	新規	